

こなん水辺公園ニュース

2011年3月号(通算第9号)

こなん水辺公園解説員グループ編集

自然解説再開しました

12月からお休みしていた自然解説員ですが3月から再開しました。毎週土曜日と日曜日の午前10時から午後2時まで駐在しています。園内をうろうろしますので、気軽に声をかけてください。

今は、春の始まり



♪ はあるのおがわはさらさらいくよ

公園内の小川です。昔懐かしいあぜ道を挟んで勢いよく流れています。人工的な流れですが、生きものたちはたくさんいます。

春の初めには、何が見えるでしょうか。

3月末にカメラを持って歩いてみました。

見つけましたよ！！ 小さな春を



アオミドロです。なにこれ！？と思うかも知れませんが、寒くても緑を提供してくれる大切な生き物です。少し生長しては千切れて行き、タニシやメダカのエサになります。食物連鎖の底辺を支える大切な植物です。



ヒメタニシです。水の温度が低いのでほとんど動けません。殻の先がミドリ色をしているのが特徴です。

アシ原はこんな感じです。



昨年の暮れに刈り取られ、寂しい感じのアシ原。まだオオヨシキリは来ませんが、早く新芽を出して欲しいものです。その中に、緑を見つけました。



セイダカアワダチソウです。寒い土地からの外来種で、アシが芽吹く前に芽を出し、成長を始めます。この時期は根が浅いので、簡単に駆除出来ますが、根は長く生命力の強さを思い知らされます。

池のほとりであたずっていると、パチパチと音が聞こえます。アシの新芽が古い株を押しやって成長する時に発する音です。私が大好きな音です。

ハスはどうなっている？

ハスの畑もまだ寂しい状態です。



ここのハスは、レンコンを作りません。ハナハスの種類で、大きな葉は枯れると消えてしまいます。

よく見ると新芽がありました。



ガマの新芽です。河北潟周辺にはヒメガマが多く、これもヒメガマだと思います。写真の中に見える黒い花びらみたいに見えるものがありますが、分かりますか。昨年のハスの実が抜け落ちた抜け殻です。

畑の中にはメダカがたくさん泳いでいました。

池の様子はどうでしょうか



水の中のガマやアシは刈り取られる事はなく、実（種）を思いっきり飛ばしています。でも、他の場所で芽を出すことはあまりありません。適した場所ではないと簡単には発芽しないようです。

この写真の題は「揺れるガマ」です。風に揺れているのではありません。水の中には大型のコイやフナがいます。さかな達は春を感じて動き始めています。

時々、バシャッと音がして、大きな波紋ができます。産卵時期が近づくとさかな達の警戒心が薄れ、浅い所に移動してきます。この時、ガマに当たりガサガサと気配を表します。ちなみに、ガマは60cmの水深でも生きていけます。ですので、ガマの生え際はかなりの深さがあると思ってください。

やがて春本番を迎える頃、コイやフナは集団で産卵行動に入り、河北潟のいたる所でバシャバシャという音が聞かれます。



この写真は、公園の横を流れる大宮川のもので、私が大好きなマコモです。

マコモは生息範囲が非常に狭く、減りつつある種の1つです。「かほっくり」と呼ばれるマコモは、大陸からの移入種で、本来の河北潟の種ではありません。

マコモは沖に向かって伸びるとき、屋根状になり、さかな達の隠れ家を提供してくれます。芽吹く時期は遅く、4月中旬です。今ある茎の部分が緑色に回復しそこから新しく葉が出てきます。ですので、種が飛びそこから芽を出す事はほとんどありません。一度消滅すると簡単には回復しないのは、この為だと思います。

このマコモは、フナたちの産卵場所として大切な存在です。先にも書きましたが、屋根状に広がる茎や細い根は、フナの卵を固定して、守ってくれるのです。

自然のつながりを理解すると、面白いことがたくさん見えてきます。見えない水の中を想像するだけでもワクワクしませんか。

草原にはツクシが



思いっきり接写してみました。まだ短くて、初々しく感じます。我が家の庭にも生えてきました。夏に向けて、スギナや雑草との戦いが今年も始まります。



タンポポも開花していました。葉も花も小さく、やっと咲いた感じです。でも、花はちぎり取りました。この時期のタンポポはすぐに綿毛となり、近くで根付き活発に増えていきます。このタンポポは、

セイヨウタンポポです。初春から晩秋まで咲き続け、生息範囲を広げていきます。セイダカアワダチソウと同じく、生命力の強い植物です。

もう1つ困った植物



これは、河北潟全域に広まっているチクゴスズメノヒエという植物です。聞き慣れない名前ですが、外来植物です。

マコモが育っていた場所に入り込んで根付いています。この写真は、公園内の池で岸沿いに生えている場所を写真にしました。この場所でもそうですが、さかな達の産卵場所が失われつつある中で、このチクゴスズメノヒエの根の部分が好環境を作っているのです。沖にせり出した茎は隠れ家となり、根は網状に広がり産卵した卵を守っているのです。

(文・河合雄二)

発行 2011年3月21日

制作 こなん水辺公園解説員グループ (NPO 法人河北潟湖沼研究所内)

連絡先 〒929-0342 河北郡津幡町北中条ナ 9-9 NPO 法人河北潟湖沼研究所